

河井咄華 おほな 小説家。明治十四年十一月二十日爲根縣生れ、四十年四月二十五日没（一八一—一九〇七）。本名英二。明治二十四年上京、哲學館に入ると、翌年東京專門學校に轉ず。また『山陰新報』社友として小説、評論、翻譯等幅廣く執筆、更に『出雲旅行唱歌』（明治二十五年刊）、天野淡翠との合作『教師之妻』（明治二十七年刊）を出版。二十八年には隆文館の雑誌『新聲』記者となり、淡翠と共に兄事した。久保天隨の著作『實用作文法』（明治二十九年九月十三日實業之日本社）、『詳註現代名家文選』（明治四十一年十月十一日金刺世万流堂）等の原稿整理に當らなごころありしが、やくばく幾許もなく早逝、木の下庵の筆名で『大阪毎日新聞』の懸賞小説に應募した作品『細手籠』（明治四十一年一月十五日春陽堂）は没後の刊行に留つた。

手本書寫總論 『河井咄華美文選』（平成七年五月一日爲根國語国文会）

おほな。

